

風と共に去りぬ (1939)

GONE WITH THE WIND

メディア 映画

ジャンル ドrama 文芸 ロマンス

製作国 アメリカ

色彩 Color

時間 231分

初公開日 1952/09/04

公開情報 MGM

映倫 G

1972/02 [MGM]

1975/08 [富士]

リバイバル 1976/08 [富士]

1994/08 [MGM=U I P]

1999/10 [ヘラルド]

2005/12/28 [東京アトラル]

【キャッチコピー】

雄大なスケールの中に燃え上がる炎の恋！映画史に輝く不朽の名作（リバイバル時）

映画史上、燐然と輝く愛の金字塔！！

炎のごとく燃え上がる世紀のロマンを雄大、華麗に描いた永遠・不朽の名作（リバイバル時）

【解説】

“タラのテーマ”を耳にしただけで走馬燈のように数々の名シーンが蘇り、知らず知らずの内に涙が溢れだし……そんな体験をした数限りない映画ファンが愛し続けた、いや、これからも愛され続けるであろう、アカデミー9部門（作品・主演女優・助演女優・監督・脚色・撮影・室内装置賞・編集賞にタルバーグ記念賞）受賞のハリウッド映画史上不滅の最高傑作！

南北戦争前後のアトランタを舞台に、炎のような女、スカーレット・オハラの波乱万丈な半生を、完璧なまでの配役とこの上ないほどの豪華なセットや衣装……と、今更語り尽くされた紹介はせずとも、その魅力あふれる内容とスケールの大きさはすでにご存じの筈。出演者選びに始まり、撮影当初から最後まで差し替えられ続けた脚本や監督の交替劇など、その最悪状態の製作過程をも乗り越えた製作者セルズニックの執念と熱意（舞台裏での混乱をも宣伝効果に使った）。彼は10数人にも及ぶ脚本家の陣頭指揮を取り、当時まだ実験途中だったテクニカラーを導入する等、今や“セルズニックの監督作”と呼ばれるこの超大作を渾身で作り上げた。“二度と作る事が出来ない”と言わしめただけの豪華さを持って、後の映画製作に（良くも悪くも）多大な影響を及ぼす結果を生んだ事も決して忘れてはならない所である。確かに長すぎるとも思える上映時間や、主人公スカーレット・オハラが万人に愛されるようなキャラクターでないのは事実。スカーレットが愛し続けたアシュレーも“そんなにイイ男か？”と思ってしまう部分もあるのだが、この映画を通過する事は、映画ファンを自負する者にとってはもはや“義務”なのである。そう、“これを見ずしてハリウッドは語れない”的だから……。

【クレジット】

監督	ヴィクター・フレミング	Victor Fleming
製作	デヴィッド・O・セルズニック	David O. Selznick
原作	マーガレット・ミッ切尔	Margaret Mitchell
脚本	シドニー・ハワード	Sidney Howard
撮影	アーネスト・ホーラー	Ernest Haller

	レイ・レナハン	Ray Rennahan
プロダクションデザイナー	ウィリアム・キャメロン・メンジース	William Cameron Menzies
編集	ハル・C・カーン	Hal C. Kern
音楽	マックス・スタイナー	Max Steiner
出演	ヴィヴィアン・リー	Vivien Leigh
	クラーク・ゲイブル	Clark Gable
	レスリー・ハワード	Leslie Howard
	オリヴィア・デ・ハヴィランド	Olivia De Havilland
	トーマス・ミッ切尔	Thomas Mitchell
	バーバラ・オニール	Barbara O'Neil
	ハティ・マクダニエル	Hattie McDaniel
	ジェーン・ダーウェル	Jane Darwell
	ウォード・ボンド	Ward Bond
	イヴリン・キース	Evelyn Keyes
	アン・ラザフォード	Ann Rutherford
	ジョージ・リーヴス	George Reeves
	オスカー・ポルク	Oscar Polk
	バタフライ・マックィーン	Butterfly McQueen
	フレッド・クレーン	Fred Crane
	ヴィクター・ジョリイ	Victor Jory
	エヴェレット・ブラウン	Everett Brown
	ハワード・ヒックマン	Howard Hickman
	アリシア・レット	Alicia Rhett
	ランド・ブルックス	Rand Brooks
	キャロル・ナイ	Carroll Nye
	ローラ・ホープ・クルーズ	Laura Hope Crews
	エディ・アンダーソン	Eddie Anderson
	ハリー・ダベンポート	Harry Davenport
		スカーレット・オハラ
		レット・バトラー
		アシュレイ・ウィルクス
		メラニー・ハミルトン
		ジェラルド・オハラ
		エレン・オハラ
		マジー
		ドーリー
		トム